

学校法人 **南京都学園**

令和 6 年度 事業報告書



京都府相楽郡精華町下狛中垣内 48

学校法人 **南京都学園**

理事長 本部 広樹

監査報告書

令和7年5月27日

学校法人 南京都学園

理 事 会 御 中

評 議 員 会 御 中

学校法人 南京都学園

監事 林 田 洋



監事 水村 直義



私たちは、学校法人南京都学園の監事として、私立学校法第37条第3項及び学校法人南京都学園寄附行為第16条の規定に基づいて、同学園の令和6年度（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで）における財産目録及び計算書類（貸借対照表、資金収支計算書、活動区分資金収支計算書及び事業活動収支計算書）を含め、学校法人の業務及び財産の状況又は理事の業務執行の状況に関し監査を行いました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務及び財産の状況に関する不正の行為又は法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認めました。

以上

目 次

I 法人の概要

1. 学校法人南京都学園の沿革・・・・・・・・・・・・・・1
2. 教育理念
3. 学園訓
4. 学園の教育の目的
5. 設置する学校の概要
6. 設置する学校の課程・学科の入学定員、生徒数の状況
7. 役員・教職員の概要
 - 1) 役員
 - 2) 評議員
 - 3) 教職員

II 事業の概要

1. 京都廣学館高等学校・・・・・・・・・・・・・・4
 - 1) 令和6年度の事業の概要
 - 2) 令和6年度の主な事業の目標、進捗状況
2. 京都福祉専門学校・・・・・・・・・・・・・・17
 - 1) 令和6年度の事業の概要
 - 2) 令和6年度の主な事業の目標、進捗状況
3. 京都動物専門学校・・・・・・・・・・・・・・24
 - 1) 令和6年度の事業の概要
 - 2) 令和6年度の主な事業の目標、進捗状況

III 財務の状況

1. 令和6年度の財務状況・・・・・・・・・・・・・・32
 - (1) 資金収支計算書
 - (2) 事業活動収支計算書
 - (3) 貸借対照表
 - (4) 財産目録
 - (5) 資金収支・事業活動収支対比
2. 令和2年度以降の財務状況経年比較表・・・・・・・・・・37
 - (1) 資金収支計算書
 - (2) 事業活動収支計算書
 - (3) 貸借対照表

I 法人の概要

1. 学校法人南京都学園の沿革

昭和 48. 3. 29.	南 京 都 学 園 予 備 校 設置認可
50. 3. 31.	学校法人 南京都学園 認可
	南 京 都 学 園 予 備 校 (昭和 48 年 4 月～昭和 55 年 3 月)
53. 12. 5.	南 京 都 幼 稚 園 設置認可 (昭和 54 年 4 月～昭和 60 年 3 月)
昭和 55. 1. 25.	南京都商業高等専修学校 設置認可 (昭和 55 年 4 月～昭和 59 年 3 月)
58. 12. 13.	南 京 都 高 等 学 校 全日制課程普通科 設置認可
平成 8. 1. 11.	京 都 福 祉 専 門 学 校 教育・社会福祉専門課程介護福祉科 設置認可
8. 11. 15.	京都デザイン・ビジネスカレッジ 工業専門課程 商業実務専門課程 服飾・家政専門課程 設置認可
14. 4. 1.	京都デザイン・ビジネスカレッジ を 京都情報ビジネス住環境専門学校 に校名変更
21. 4. 1.	京都情報ビジネス住環境専門学校 を 京都動物専門学校 に校名変更
25. 4. 1.	南京都高等学校 を 京都廣学館高等学校 に 校名変更
26. 1. 17.	京都廣学館高等学校 通信制課程 設置認可

2. 教育理念

人間の能力は生まれつきのものではなく

その人の努力によって開発され、無限に伸ばされる

(昭和 28 年 3 月 18 日)

3. 学園訓

愛・信・敬

本学園は、学生・生徒の守るべき学園訓を愛・信・敬とした。

- 一、他人^{ひと}を愛し 他人^{ひと}を信頼し 他人^{ひと}を尊敬する 人間^{ひと}に私はなりたい
二、他人^{ひと}から愛され 他人^{ひと}から信頼され 他人^{ひと}から尊敬される 人間^{ひと}に私はなりたい

(昭和 62 年 4 月)

4. 学園の教育の目的

愛情と信頼と尊敬に充ちた教育を通じて、個性を伸ばし、能力を開発し、自立と向上心ならびに互助協力の精神を培わせ、徳・体・智の調和のとれた人格の形成を図り、平和で民主的な国家及び社会に貢献できる人間を育成することを目指している。

5. 設置する学校の概要

令和6年4月1日現在

学 校 名	所 在 地	校地面積(m ²)	校舎面積(m ²)
京 都 廣 学 館 高 等 学 校	京都府相楽郡精華町大字 下狛小字中垣内 48 番地	61,242	12,045
京 都 福 祉 専 門 学 校	京都府宇治市小倉町春日森 25	2,770	1,937
京 都 動 物 専 門 学 校	京都市伏見区桃山福島太夫西町 6	1,732	2,286
そ の 他	京都市伏見区桃山筒井伊賀西町 21	465	611
法 人 合 計		66,209	16,879

6. 設置する学校の課程・学科の入学定員、生徒数の状況

令和6年5月1日現在

学 校 名	課 程	学 科 名	学則定員 (募集定員)	1 年	2 年	3 年	合計
京都廣学館高等学校	全 日 制	普 通 科	1, 320 (240)	174	221	182	577
	通 信 制	普 通 科	360 (120)	35			35
京 都 福 祉 専 門 学 校	教育・社会福祉専門	介護福祉科	80 (40)	31	27		58
京 都 動 物 専 門 学 校	商業実務専門	グルーミング 学 科	80 (40)	38	39		177
		愛玩動物看護 学 科	105 (35)	36	33	31	
法 人 合 計							847

7. 役員・教職員の概要

1) 役員

令和6年4月1日現在

役 職	氏 名	役 職	氏 名
理 事 長 理 事 理 事 理 事 理 事	本 部 広 樹 瀧 野 博 史 丸 岡 晃 嗣 木 原 茂 弘 中 西 紳 也 本 部 真 理 子	理 事 理 事 理 事	田 井 道 治 小 野 貴 志 山 中 隆 央
		監 監 事 監 事	林 田 洋 木 村 直 義

2) 評議員

令和6年4月1日現在

定数19名 現員19名

3) 教職員

令和6年5月1日現在

	専 任 教 員	兼 任 教 員	専 任 助 手	兼 任 助 手	専 任 職 員	兼 任 職 員	嘱 託 常 勤 職 員	嘱 託 非 常 勤 職 員	学 校 歯 科 医 (兼 務)	学 校 医 (兼)	学 校 薬 剤 師 (兼)	合 計
法 人 本 部					8	1	3					12
京都廣学館高等学校	49	8	2		8	7		1	(1)	(1)	(1)	75
京都福祉専門学校	4	24		2	2		1					33
京都動物専門学校	8	13		9	3	3						36
合 計	61	45	2	11	21	11	4	1	(1)	(1)	(1)	156

Ⅱ 事業の概要

1. 京都廣学館高等学校

1) 令和6年度の事業の概要

- (1) 令和4年度入学生からの新学習指導要領における新カリキュラムの完成
- (2) (1)に伴う観点別評価の適切な実施と、通知表・指導要録の完成
- (3) 授業等におけるICT機器の恒常的活用
- (4) 生徒1人1人の希望進路実現に向けた3年間を通してのキャリア教育の実施
- (5) 合理的配慮の法的義務化等、教職員の研修によるブラッシュアップ
- (6) 教職員の「建学の精神」の更なる理解と日常生活での実践
- (7) 通信制課程クエストコースにおける教育活動の始動と充実
- (8) 生徒数

(全日制) < 577名 18クラス>

令和6年5月1日現在(単位:人)

		1 年			2 年			3 年			合計		
		在籍者		学級数	在籍者		学級数	在籍者		学級数	在籍者		学級数
アドバ ンス	男	36	67	2	48	96	3	30	55	2	114	218	7
	女	31			48			25			104		
ジェネ ラル	男	73	107	3	93	125	4	96	127	4	262	359	11
	女	34			32			31			97		
合計		174		5	221		7	182		6	577		18

(通信制)

令和6年5月1日現在(単位:人)

		2024 年度生		2023 年度生		2022 年度生		2021 年度生		合計	
		在籍者		在籍者		在籍者		在籍者		在籍者	
Step-up	男			0	0	11	12	0	0	11	12
	女			0		1		0		1	
クエスト	男	12	14	6	7	0	0	1	2	19	23
	女	2		1		0		1		4	
合計		14		7		12		2		35	

(9) 主な学校行事
(全日制課程)

月	行 事	月	行 事
4	始業式・入学式・入門式 オリエンテーション・クラブ紹介 全校模試・健康診断	10	少林寺拳法大会・オープンキャンパス 中間考査・英語検定一次・模擬試験
5	京都府高校総体・中間考査・模擬試験 教育協力会総会 3年保護者等対象進路説明会	11	創立記念日・漢字検定・大学見学 入試説明会・模擬試験 1年保護者等対象進路説明会
6	英語検定一次・漢字検定 3年進路ガイダンス・3年本部研修 学校生活アンケート・歯科検診 内科検診・オープンキャンパス	12	期末考査・終業式 入試説明会・冬期講習
7	期末考査・模擬試験・終業式 塾対象説明会・夏期講習・三者面談 避難訓練・薬物乱用防止教育	1	始業式・模擬試験・卒業考査 英語検定一次・文章検・漢字検定 2年研修旅行 2年保護者等対象進路説明会
8	夏期講習・三者面談・模擬試験 アドバンス学習合宿・始業式	2	入学試験・性教育・卒業証書授与式
9	ニュース時事能力検定・模擬試験 京都廣学館祭・オープンキャンパス	3	学年末考査 修了式・新入生登校日・春期講習

(通信制課程) ステップアップコース

月	行 事	月	行 事
4	前期始業式 健康診断 全校模試	10	薬物乱用防止教室 主権者教育 性教育
5	避難訓練 教育協力会総会	11	創立記念日
6	特別活動 内科検診 歯科検診 集中スクーリング	12	
7	集中スクーリング 前期単位認定試験	1	集中スクーリング 後期単位認定 試験
8		2	補習・追試
9	特別活動 前期終業式	3	卒業証書授与式 修了式

(通信制課程) クエストコース

月	行 事	月	行 事
4	入学式 自由登校日	10	秋期集中スクーリング 自由登校日 高大連携 三者面談
5	自由登校日 教育協力会総会	11	創立記念日 秋期集中スクーリング 自由登校日 高大連携
6	自由登校日 健康診断 高大連携	12	冬期集中スクーリング 自由登校日 高大連携
7	自由登校日 高大連携	1	自由登校日 高大連携 単位認定試験
8	夏期集中スクーリング	2	自由登校日 高大連携 追試 入学試験①
9	秋期集中スクーリング 自由登校日 高大連携	3	成績発表 履修登録相談 高大連携 卒業証書授与式 入学試験②③

(10) 令和6年度全日進路状況 (卒業生178名)

全日制 コース別進路一覧

アド合計	55		ジェネ合計	123		学年全体	178	
大学・短大	46	84%	大学・短大	71	58%	大学・短大	117	66%
専門学校	8	15%	専門学校	31	25%	専門学校	39	22%
就職	0	0%	就職	17	14%	就職	17	9%
その他	1	1%	その他	4	3%	その他	5	3%
合計	55	100%	合計	123	100%	合計	178	100%

全日制 大学・短大受験方法一覧

アド合計	46		ジェネ合計	71		学年全体	117	
一般選抜	4	9%	一般選抜	0	0%	一般選抜	4	3%
公募制推薦	13	28%	公募制推薦	5	7%	公募制推薦	18	15%
総合型選抜	12	26%	総合型選抜	11	16%	総合型選抜	23	20%
指定校	15	33%	指定校	40	56%	指定校	55	47%
特別推薦	2	4%	特別推薦	15	21%	特別推薦	17	15%
合計	46	100%	合計	71	100%	合計	117	100%

全日制 大学・短大別合格者数一覧

令和6年度 京都廣学館高等学校 大学・短期大学合格者一覧

一般入試選抜		アド ジェネ		アド ジェネ			
同志社大学	社会学部	1		立命館大学	産業社会学部	3	
	理工学部	1			理工学部	1	
関西大学	システム理工学部	1		龍谷大学	国際学部	1	
京都産業大学	外国語学部	1					

学校推薦型選抜(公募制)		アド ジェネ		アド ジェネ			
近畿大学	理工学部	2		龍谷大学	社会学部	1	
大和大学	情報学部	3		佛教大学	教育学部	1	
摂南大学	経済学部	2		京都産業大学	現代社会学部	3	
	国際学部	1		追手門学院大学	経営学部	3	
大阪経済大学	経営学部	1		大阪成蹊大学	教育学部	1	
天理大学	国際学部	1		藍野大学	看護学部	1	
畿央大学	教育学部	9		奈良大学	社会学部	1	
京都文教大学	臨床心理学部	2		大阪商業大学	総合経営学部	3	
京都先端科学大学	健康医療学部	2			経済学部	1	
大阪経済法科大学	経営学部	1	1	大阪電気通信大学	総合情報学部	1	
	経済学部	1	1	帝塚山大学	経済経営	2	
	国際学部		2		文学部	1	1
	法学部		1		法学部	4	
大阪学院大学	経済学部		2	奈良学園大学	保健医療学部		1

学校推薦選抜(指定校)		アド ジェネ		アド ジェネ			
佛教大学	社会学部		1	摂南大学	現代社会学部	1	
関西外国語大学	英語国際学部	1		京都外国語大学	国際貢献	1	
追手門学院大学	経営学部	2		大谷大学	国際学部		1
	地域創造学部	1			文学部	1	1
京都文教大学	こども教育学部	1		関西福祉科学大学	健康福祉学部	1	
	総合社会学部		3		保健医療学部		1
大阪産業大学	経営学部		1	大阪商業大学	経済学部		2
	情報デザイン学部	1			総合経営学部	1	1
大阪電気通信大学	情報通信工学部	1	1	奈良学園大学	看護学部		1
梅花女子大学	食文化学部	1			保健医療学部	2	2
びわこ成蹊スポーツ大学	スポーツ学部		2		人間教育学部	1	
花園大学	文学部		1	京都先端科学大学	経済経営学部		2
京都美術工芸大学	芸術学部		1		健康医療学部		1
阪南大学	経済学部		1		人文学部		1
帝塚山大学	教育学部		1	大阪学院大学	経営学部		1
	経済経営学部		1		国際学部		1
	現代生活学部		1		法学部		1
	心理学部		1	大阪国際大学	経営経済学部		1
	文学部		1	大阪人間科学大学	保健医療学部		1
	法学部		1	奈良大学	社会学部		2
大阪芸術大学短期大学部	デザイン美術学科		1		文学部		1

総合型選抜		アド ジェネ		アド ジェネ			
京都女子大学	心理共生学部	1		同志社女子大学	学芸学部	1	
	発達教育学部	1		天理大学	国際学部	1	
摂南大学	農学部		1	畿央大学	教育学部	1	
京都医療科学大学	医療科学部	1		京都芸術大学	芸術学部	1	
福山大学	生命工学部	1		帝塚山大学	経済経営学部	1	1
大阪商業大学	総合経営学部	1	1	大阪学院大学	国際学部		1
大阪樟蔭女子大学	学芸学部		1		情報学部		1
大阪産業大学	経営学部		1	大阪信愛学院大学	教育学部		1
	経済学部		1	奈良大学	社会学部		1
皇學館大学	文学部		1	大和大学白鳳短期大学部	総合人間学科	1	
大阪成蹊短期大学	調理・製菓学科	1					

特別推薦(クラブ推薦等)		アド	ジェネ			アド	ジェネ
日本体育大学	スポーツ文化学部		1	佛教大学	社会学部	1	
追手門学院大学	法学部		1	びわこ成蹊スポーツ大学	スポーツ学部		2
	経営学部		1	大阪経済法科大学	経済学部		1
大阪産業大学	経済学部		1	九州医療科学大学	社会福祉学部	1	
大阪国際大学	人間科学部		3	神戸国際大学	経済学部		3
帝塚山大学	心理学部		1	明治国際医療大学	保健医療学部		1

全日制 専門学校等進学先一覧

専門学校等名	人数	専門学校等名	人数
京都動物専門学校	6	辻調理師専門学校	1
京都福祉専門学校	1	奈良調理短期大学校	1
マロニエファッションデザイン専門学校	3	京都理容美容専修学校	1
ヴィーナスアカデミー美容専門学校	2	アミューズ美容専門学校	1
大阪アニメ・声優&スポーツ専門学校	2	大阪モード学園	1
京都医健専門学校	2	大阪ウェディング&ブライダル専門学校	1
京都第一赤十字看護専門学校	1	大阪ビューティーアート専門学校	1
洛和会京都看護学校	1	大阪外国語・ホテル・エアライン専門学校	1
大阪歯科衛生士専門学校	1	大阪ホテル・観光&ウェディング専門学校	1
森ノ宮医療学園専門学校	1	大阪鉄道・観光専門学校	1
履正社国際医療スポーツ専門学校	1	ESA 音楽学院専門学校	1
日本医療学院専門学校	1	大阪ダンス・俳優&舞台芸術専門学校	1
大阪動植物海洋専門学校	1	奈良高等技術専門学校	1
トヨタ名古屋専門学校	1	大原簿記ビジネス公務員専門学校京都校	1
京都調理師専門学校	1		

全日制 就職先一覧

企業名等	人数
株式会社一門会串かつだるま	2
みらい空調株式会社	2
株式会社ジェムケリーグループホールディングス	1
くら寿司株式会社	1
エムケイ石油株式会社	1
株式会社ハマックス	1
片桐工業株式会社	1
株式会社カーライフサービス	1
山内工業株式会社	1
社会福祉法人浩照会	1
縁故就職	5

通信制 ステップアップコース 進路一覧 卒業生 8 名（令和 7 年 3 月 3 1 日現在）

進 路	人数	大学名・校名・企業名
大学進学	1	近畿大学理工学部
専門学校進学	4	大阪 ECO 動物海洋専門学校
		京都調理師専門学校
		辻調理師専門学校
		大原簿記ビジネス公務員専門学校
就職	1	山城設備工業
その他	2	

通信制 クエストコース 進路一覧 卒業生 1 名（令和 7 年 3 月 3 1 日現在）

進 路	人数	大学名・校名・企業名
その他	1	

(11) 令和 7 年度 生徒募集状況

令和 7 年 3 月 3 1 日現在

全日制				出願者（人）	合格者（人）	入学者（人）
試験区分	一 次	前 期	専 願 (推薦含)	171	170	170
			併 願	359	329	10
		後 期	専 願	1	1	1
			併 願	176	159	4
		前後期	専 願	31	30	30
			併 願	55	43	3
	1.5 次	専 願		-	-	-
	合 計			793	732	218
コース	ジェネラルコース			449	446	125
	アドバンスコース			344	286	93
	合 計			793	732	218

通信制	出願者（人）	合格者（人）	入学者（人）
新 入 学	15	15	15
編 入 学	1	1	0
転 入 学	1	1	1
合 計	17	17	16

2) 令和 6 年度の主な事業の目標、進捗状況

(1) 教育内容の充実

① アドバンスコース

ゼミ運営：受験指導に向けて、放課後や長期休暇にゼミを実施した。しかしながら、クラブ選択タイプの生徒はほぼゼミに参加ができておらず、家庭学習の時間も取れていない。理想の文武両道とはかけ離れた状況であった。

朝学習： 学習習慣の確立と基礎学力の定着を目的に朝学習を実施した。日々の積み重ねによる学習を通じて、モーニングテストでは英語や漢字の知識を身につけ、コラムでは日本語に慣れ親しむ良い機会となった。

学習合宿： 集団生活の中で生活習慣や学習習慣の振り返りができた生徒もあり、また3年生にとっては公募推薦入試に向けて受験の意識を高めていく良い機会となった。しかしながら、部活動の公式試合等で参加ができない生徒もあり、コース内の足並みがそろわなかった。また、以前は積立金から充当していた費用では不足分が生じ、学級活動費から徴収することになった。

大学見学： アドバンスコース2年生で近畿大学への大学見学を実施した。また大学見学後に進学ガイダンスを開催した。今後の進路選択に向けての一助となる学習を行なうことができた。

進学講話： 探究の時間内にコースのOB、OGを招いて、大学受験の体験談を聞く進学講話を実施した。OB、OGの体験談は在校生にとって親近感があり、受験勉強へのモチベーションも高まった。

検定試験： 各検定の学年目標級をコースで設定し、受験することになっている。大学入試で検定試験の結果を利用することも多く、今後も受験の必要性が見込まれる。引き続き、受験計画や受験準備を担任から発信している。

保護者等との連携： 1学期末は全員、2・3学期末は希望制あるいは指名制で三者面談を実施し、進路やクラスについて保護者等と情報を共有し、方向性を決めていく良い機会とした。

②ジェネラルコース

大学進学クラス・総合選択クラスのそれぞれの特色を活かした取り組みを行った。

進学希望生徒は大学見学会へ参加し、就職も視野に入れている生徒は業界別企業説明会に積極的に参加した。大学・専門学校への進学から就職まで、生徒や保護者等の幅広いニーズに応えていかなければならない。

大学進学クラスではペーパーでの英単語テスト、総合選択クラスではClassiでの英単語の小テストを実施した。毎日の学習習慣の定着に役立った。

大学進学クラスでは、英検と漢検をそれぞれ年1回ずつ受検を課しているが、2回目以降も自主的に受検する生徒が多く見られた。大学進学クラスからは3名がアドバンスコースにコース変更した。総合選択クラスからも希望制の模試を受検して、2名がアドバンスコースにコース変更し、2名が大学進学クラスにクラス変更した。

春・夏・冬の長期休暇中に国語・数学・英語の講習を実施し、学習意欲の高い生徒が継続的に受講した。学期の振り返りや検定対策、模試対策を行った。

探究での進路学習に加えて、進路部が主催する各種説明会への積極的な参加を促し、進路に関して実体験する機会を多く設けた。

三者面談や保護者会の機会に加えて、学費やオープンキャンパスに関する冊子を配付することで、情報の共有に努めた。

③ステップアップコース

3Daysの割合が増えたことで生徒の状況把握が難しくなった。半面、少人数の強みを生かし、学習（レポート・スクーリング）の進捗状況等の管理が徹底できた。さらに、充実した特別活動を実施することができた。

また、教職員対象の不審者対策講習により、校内の安全対応を確認することがで

きた。

④クエストコース

生徒との日常的な接触が無く、また現状では教職員を多く割り当てられないというコース特性があるが、課題レポートや視聴報告書の添削指導や質問シートにより、オンライン上でより密にコミュニケーションをとることができた。また不登校生徒を主な対象としていることから、入学者の学力到達レベルの個人差が大きく、各生徒が自らの状況に応じてできる限り自らの力で学習を進められるような対策をとった。学校独自の授業動画の他、小学校から高校まで幅広くサポートできる「スタディサプリ」の全生徒導入で学び直しや取りこぼしをカバーすると共に受験学習にも対応できるような体制をとった。他にも教科書付属の動画やNHK 高校講座等を活用し、生徒自らの力で高校卒業単位の習得ができるように誘導を行うと共に、選択制の「隔週登校オプション」について全生徒に履修を促し、直接指導できる機会において適切なサポートを行った。

また面接指導（スクーリング）においては、Web スクーリングを最大限活用し、直接の対面指導では、一斉授業ではなくそれぞれの自主学習に対する個別サポートや実技・実習を主に計画した。

課題は進路指導である。これも生徒の自発的な選択を促しつつ、適切な情報提供などサポートを行えるような工夫を計画していく必要がある。高大連携の「デジタルフューチャー選択」にて育英館大学京都キャンパスでの情報系の専門教育を受講する等、進路選択に有益な体験の機会を提供していくことが重要である。

（２）生活指導の充実

- ・生徒会活動による校則を見直す議論をすすめ、自主・自立・自治の精神を培わせた。また、南部地区の生徒会交流会においては高いコミュニケーション能力を発揮できた。
- ・昨年度は進級・卒業要件にかかわらない朝礼における遅刻者が多かったが今年度は大幅に減少した。利害にとらわれず、社会規範を遵守する意識の向上が必要である。
- ・1年生を対象に薬物乱用防止教室並びにスマートフォンの使用、SNS の利用に関するモラルの向上のための講習会を実施し、リテラシーの習得につとめた。他学年に対しても同様の講習会を実施すべきである。SNS の不適切な使用による懲戒処分が1件におさまっているが、継続した取り組みを要する。
- ・学内奨学生が懲戒の対象となり、資格を停止等の処分を行った。奨学生としてアドミッションポリシーに合致した人物であるかどうか十分に確認を行い、入学前の意識確認と入学後の継続指導を強化する必要がある。
- ・建学の精神や社会状況を照らし合わせて、校則・懲戒の運用について見直しを図った。その結果、生徒・教職員ともに校則の意義について考える機会となった。今年度においても具体的な変更事項はなかったが、継続して検討する必要がある。
- ・女子更衣室については、常に教室への転換を念頭に置かざるを得ないため、顕著な改良を施すことができなかった。1号館3階の女子更衣室は男子教職員更衣室とパーテーションにより仕切られているだけの構造なので、場所の移動が望ましい。
- ・支援計画や合理的支援に関する委員会を実施した。委員会にかかわった教員には当事者としてかかわることができたが、それ以外の教職員にも同委員会の必要性に関する共通理解が必要である。
- ・合理的配慮について教職員研修を実施した。合理的配慮の法的義務化に向けた対応やいじめ問題や性の多様性等、直面している問題事例や対応方法について研鑽を積

んでいく必要がある。

- ・校門での登校指導に取り組み、挨拶・言葉遣い・身だしなみに関して大きく改善された。
- ・長期休暇中の三者面談については適切に実施できた。次年度においても、平素より保護者との連絡を密にとり、情報共有に努める必要がある。
- ・生活指導上、懲戒処分の対象となった事案が31件（前年度61名）と昨年度を下回る指導件数であった。生徒全員が安全で安心して勉学に励むことができる環境づくりが必要である。
- ・転退学者状況

全日制	在籍 (R6. 4. 1 現在)	退 学	転 学	転 籍	在籍 (R. 7. 3. 31 現在)
1 年	1 7 5	2	6	2	1 6 5
2 年	2 2 2	4	5	4	2 0 9
3 年	1 8 3	1	3	0	1 7 9
計	5 8 0	7	1 4	6	5 5 3

退学（転学含む）率4. 6 %

通信制	在籍 (R6. 4. 1 現在)	転出（減）		転入（増）		在籍 (R. 7. 3. 31 現在)
		退学	転学	転・新入	転籍	
	3 4	1	2	4	6	4 1
		3		1 0		

（３）進路指導について

＜進学＞

①行きたい進路へ

「行ける進路」ではなく、「行きたい進路」の実現を目指し、卒業生の約7割の生徒が大学・短期大学に、約2割の生徒が専門学校に進学した。受験方法は多岐にわたり、それに適した早期からの受験対策が重要である。特にクラブ員は受験に向けての準備時間が十分とは言えず、担任・クラブ顧問・教科担当者が受験情報を共有・理解し、生徒への進学計画・指導を行っていく必要がある。

②情報提供

学年ごとに保護者対象進路説明会を実施し、各学年の進路指導の段階に応じた情報発信を行うことができた。また、各学年で年に1回進路ガイダンスを実施してきた。しかし、例年3年生の6月のガイダンスは、その時点で進路が決定している生徒も多数存在するため2年生2月に前倒しで実施した。

③Classi の活用

Classi を利用して、進路希望調査を各学年で定期的に実施した。生徒の希望する進学先を把握するとともに、そのデータを各生徒に応じた適切な進路指導を行う際の情報源とした。回答形式を紙ベースからClassiに移行したことで、担任による集計の負担を軽減できた。

④大学見学会

協定校の大学見学や校内大学説明会を通じて、各校との連携を深め、本校生徒の進路の選択肢を増やした。進学行事の一環として、新たに進学イベントの参加を企画・実施した。参加者は進学への意識を高めるとともに、志望校選択に向けて詳細

な情報を得ることができた。

<就職>

①就職指導

学校斡旋希望者で就職する者は男子 5 名、女子 7 名の計 12 名、また縁故就職する者は男子 5 名という結果になった。学校斡旋で就職する生徒は 5 月～7 月に全 9 回（毎週水曜日）の就職対策講座を行った。求人票の見方、一般常識、クレペリン検査等を実施した。

②会社訪問

学校斡旋で内定をいただいた後、全 11 社に訪問した。

③業界別説明会

3 月に本校主催による生徒対象業界別説明会を実施した。参加企業の職種は物流・製造・事務・建設・警備・美容・販売・飲食・福祉・鉄道・公務員（自衛隊・消防・警察）、13 の企業等に協力いただいた。各ブース形式（約 30 分 2 回転）にて実施し、47 名の生徒が参加した。

<支援金制度>

①JASSO

各学年保護者対象進路説明会において、日本学生支援機構のガイダンスを行い、生徒対象の説明会も実施した。内容が複雑な面もあり保護者等からの問い合わせが多かった。また、保護者等からの電話や来校での問い合わせについては、個別に対応したことで手続きを無事に完了することができた。内訳は次の通りである。

奨学生生徒対象者	112 名
給付及び貸与申込者	71 名
貸与申込者	31 名
給付申込者	10 名

②修学支援金制度

今年度の継続申請と返還計画手続きは無事に完了した。

京都府貸与者	12 名 (3 年生)、8 名 (2 年生)、6 名 (1 年生)
奈良県貸与者	1 名 (3 年生)
大阪府育英会貸与者	1 名 (3 年生)、4 名 (2 年生)、1 名 (1 年生)
返還計画書提出者	14 名 (3 年生)

3) 教務一般について

全教室に Wi-Fi 環境が整備されたことにより、Zoom による始業式・終業式が実施でき、また、授業での活用も幅が広がっている。

今年度、出席簿の管理にミスが発生した。次年度においては複数の目で最終確認を実施し、再発防止に努める。

学事システムの新カリキュラムへの対応も滞りなく完了しているが、更に必要な機能があれば柔軟に対応していきたい。

探究授業については、未経験の教員も多く、準備など負担が大きい各学年で協力しあい実施に向けて努力する。ICT 機器の活用は、若手の先生方も増え活用頻度が高まっている。

4) 生徒募集活動について

(単位：人)

地 域	R6 年度生 目 標	入学者	目標比	R7 年度生 目 標	入学者	目標比	前年比
京都府下	155	112	-43	155	152	-3	+40
京都市内	30	14	-16	30	16	-14	+2
奈良県	40	32	-8	40	37	-3	+5
大阪府	20	15	-5	20	11	-9	-4
その他	-	1	+1	-	2	+2	+1
合 計	245	174	-71	245	218	-27	+44

※大阪府以外の地域において昨年度を上回る入学者を獲得することができた。

推薦・専願・併願入試出願者

(単位：人)

A～E の内訳 推薦・特待	令和 6 年度生						令和 7 年度生					
	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E
アドバンス推薦	19	6	2	11	-	-	13	4	1	8	-	-
ジェネラル推薦	16						18					
検定推薦	14	3	6	5	-	-	31	6	7	18	-	-
クラブ推薦	74	40	15	15	1	3	97	62	12	12	1	10
アドバンス併願特待	1	0	0	1	-	-	3	0	1	2	-	-

※ 奨学生の種別 A：入学金+授業料全額 B：入学金+授業料 8 割
C：入学金+授業料半額 D：入学金+授業料 3 割
E：入学金

※ 募集活動において推薦制度（入試制度）の説明等を積極的に行ったことにより、制度を活用しての志願者及び入学者は増加した。

推薦・専願・併願入試出願者

(単位：人)

年 度	総出願	推薦・専願（合格）	併願（合格）
令和 3 年度	832	206 (204)	626 (571)
令和 4 年度	850	192 (186)	658 (579)
令和 5 年度	900	223 (220)	677 (616)
令和 6 年度	832	172 (165)	660 (595)
令和 7 年度	793	203 (196)	590 (531)

※併願の入学者は 17 名で、昨年度は 9 名であった。

※17 名の内、アドバンスの併願特待が 3 名で、特待 B が 1 名、特待 C が 2 名であった。また、今年度の併願特待での入学者 3 名は全て京都府下（京田辺市）の生徒であった。

地元からの出願者

(単位：人)

地 域	年度	中学 3 年生数	出願者数	入学者数
精華町	令和 5 年度	342	56	25
	令和 6 年度	325	48	12
	令和 7 年度	339	61	13
京田辺市	令和 5 年度	681	106	22
	令和 6 年度	646	107	18
	令和 7 年度	627	111	26
木津川市	令和 5 年度	887	225	46
	令和 6 年度	892	235	44
	令和 7 年度	759	198	50
城陽市	令和 5 年度	569	80	14
	令和 6 年度	606	91	14
	令和 7 年度	595	96	19
宇治市	令和 5 年度	1,792	100	25
	令和 6 年度	1,525	74	13
	令和 7 年度	1,475	67	16
伏見区	令和 5 年度	2,190	36	16
	令和 6 年度	1,944	23	11
	令和 7 年度	1,888	17	11

※精華町の出願者数は昨年度と比較すると 23 名増加したが、入学者の人数では 1 名の増加にとどまった。

5) 企画・広報

今年度においても、インターネットを活用した広報活動に力を入れた。公式ブログの定期的な更新や SNS (Instagram、旧 Twitter、Facebook、LINE) の運用に加えて、TikTok での学校紹介及びイベント告知を行った。

公式ブログでは、1 日 1 回以上の更新を目指し、授業や試験、行事、クラブ活動などの生徒の様子を掲載し、イベントや入試情報の告知を行った。SNS との連動も図り、絵文字などを使い工夫した。

紙媒体では、クラブ体験や検定推薦受験者を増やすために特化したチラシを作成し、学習塾だけではなく、各中学校へのアプローチも加えて行った。

次年度は、広報活動をさらに積極的に行い、本校の「魅力」と明るく活発な雰囲気や生徒の努力する姿に焦点を当て、引き続き認知度を向上させるための活動を継続していきたい。

6) 事務一般・校舎など整備事業について

- ・ 1. 2. 3 号館および西キャンパス受水槽大規模点検および改修作業を実施した。
- ・ 2 号館汚水槽ポンプ交換および清掃を行った。

- ・グラウンド入口付近プレハブの老朽化が進み倒壊の恐れがあったため撤去した。
- ・グラウンド男子トイレのリノベーションを5月に完了した。
- ・オリエントールベーカリーのパン自販機を9月に導入した。
- ・授業料等納入状況については、保護者等の事情により遅れる場合もあるが、こまめな連絡を行い年度末までに全員完了している。
- ・就学支援金、あんしん修学支援金、奨学のための給付金、軽減、学園奨学金などの手続きを滞りなく行い、授業料に対しても反映している。
- ・官公庁等への書類提出は各部署と連携し期日通り提出している。
- ・車輛自損事故等の際には事故報告を受け対応している。
- ・車輛使用前アルコールチェックの実施と安全運転を徹底している。
- ・本年度は3月度職員会議後に安全運転に関する研修会を実施した。

2. 京都福祉専門学校

1) 令和 6 年度の事業の概要

(1) 概要

教育・社会福祉専門課程 介護福祉科／職業実践専門課程

昼間 2 年制 総定員 80 名（男女）

建学の精神に基づいた教育の具現化を図り、選ばれる学校になれるよう教育に力を入れ、業務を遂行した。

令和 6 年度は、1 年生 31 名・2 年生 27 名の計 58 名で始まり、最終的に 1 年生退学 2 名・留年 0 名で 29 名が進級。2 年生退学 0 名で 26 名が卒業した。

① 職業実践専門課程への対応

文部科学省より職業実践専門課程の認定を受け 9 年が経過した。

令和 6 年度においては、教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会を 2 回実施した。

◎1 回目は令和 6 年 9 月 27 日に実施

・議案 1) 「地域連携強化について」

～宇治市の福祉活性化 社会福祉事業と学校教育～

京都南部（山城地域）は京都府下の中で高齢化率が高く、介護人材不足が深刻である。2040 年問題、全国では約 60 万人の介護人材が不足している。このような背景の中でいかに人材確保を行っていくかの話し合いを行った。

◎2 回目は令和 7 年 3 月 14 日に実施

・議案 1) 「介護福祉士の国家試験パート合格制について」

令和 8 年 1 月の第 38 回国家試験より「パート合格制」が導入される予定である。A B C パート毎の合格制で不合格になったパートのみ翌年に受験でき、2 年間の有効期限である。3 年目に入ると振り出しとなりすべての教科を受験することになる。

② 「介護福祉士」国家資格制度について

経過措置の概要としては、平成 29 年から令和 8 年度までに介護福祉士養成施設を卒業した者は介護福祉士国家試験に合格しなくても（不合格又は受験しなかった）試験センターに登録申請をすることにより 5 年間、介護福祉士の登録を受けることができる特例措置である。

5 年間は介護福祉士国家試験に合格した者と同様、介護福祉士であるが、

①5年の間に合格すること、又は②養成施設卒業年度の翌年度の4月1日から起算して、5年間継続して介護等の業務に従事すること。

しかしこの制度は終了し、令和8年1月末の国家試験から「パート合格制」3つのパート（ABC）に教科が区分され、それぞれのパート毎に合格が決まる。一発合格すれば問題ないが、落としたパートは2年以内に合格できないと振り出しにもどり3年目には最初から全体の問題を受験することになる。勿論、本校では一発合格を目指していく。

③国家試験対策

第30回介護福祉士国家試験より受験が必須となった。令和6年度も国家試験全員合格を目指し、年度当初全員に各科目の目標設定を促し、時間割に週2コマの試験対策講座を取り入れ過去問題を中心に試験対策を行った。学力向上が図れていない生徒は個別指導に当たった。

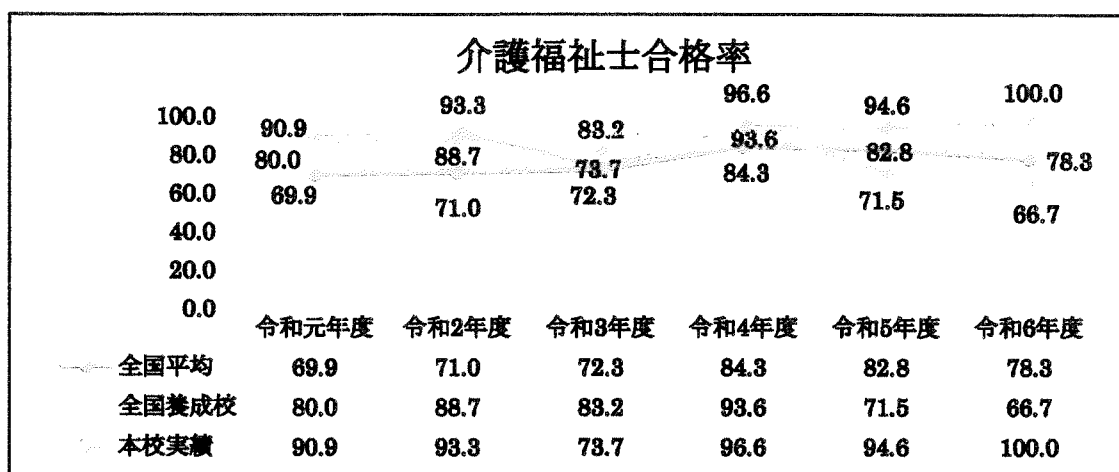
また、中央法規出版主催の全国共通模擬試験（年2回）、介護福祉士養成施設協会主催の学力評価試験（11月25日）にも臨んだ。試験対策として早い段階で実施した。受験に対しての意識は生徒にとってまちまちであった。その結果、全員受験全員合格を達成することが出来た。

<介護福祉士養成施設協会 学力評価試験結果> (125点満点)

	本校	養成校
受験者数（人）	26	4,293
平均点（点）	93.8	76.5

<第37回介護福祉士国家試験結果> (125点満点)

	本校	養成校	全国
受験者数（人）	26	6,955	75,387
合格者数（人）	26	4,638	58,992
平均点（点）	97.3	—	—
合格ライン（点）	60		
合格率（％）	100.0	66.7	78.3



④ 医療的ケア

医療的ケアは介護福祉士養成課程の学科の中で、4 領域の一つとして在宅療養や障害者施設、高齢者施設など地域で安心して暮らすために重要な支援であり、平成 23 年 6 月の法改正により介護福祉士の業務に喀痰吸引・経管栄養が追加され平成 26 年度入学生より導入した。

今年で基礎研修修了は 10 年目となった。

⑤ 離職者等再就職訓練事業（長期高度人材育成コース）の状況

平成21年度より始まった求職申込者に対する2年間の求職者訓練事業は、令和6年度生も実施され、介護福祉士コースは2コース設定で1コース5名枠であった。12月1日に募集公示（HP）、12月14日に事前説明会（京都府京都高等技術専門校）、1月9日に参加表明及び提案書の締め切り（プロポーザル書類提出）、1月23日に結果公表（HP）、1月29日に募集チラシの発送（各ハローワークへ）、2月1日～3月1日に募集期間（1ヶ月）、3月12日に試験を実施（小論文・面接）し、4名の受験者があり、1名が不合格、3名が4月入学となった。年々、応募人数が減少してきている。さらに介護福祉分野のイメージアップを図っていく必要があると考える。

⑥ 京都府修学資金貸付制度

平成 21 年度より始まった京都府介護福祉士修学資金貸付制度。京都府社会福祉協議会が実施しており2年間で最高168万円の貸付を受けられる。国家試験対策費として8万円を含む。卒業後、申請都道府県の福祉施設で介護福祉士として5年以上基本継続勤務すれば返還が免除される。令和6年度も継続して実施された。

単位：人

（）留学生	京都	滋賀	埼玉	福井
1 年	22 (9)	4	1	0
2 年	17 (3)	4	0	1

(2) 学校行事

月	行 事 (前期)	月	行 事 (後期)
4	学園全体会議・ガイダンス (1・2 年生) 入学式・健康診断・避難訓練 前期授業開始 春のレクリエーション 1・2 年交流会 (ボウリング・フォトコンテスト)	10	後期在籍調査・福祉住環境コーディネーター 2 級対策講座 (希望者 Web 学内受験) 中央法規出版模試② 整体体験
5	前期在籍調査・学校基本調査 就職ガイダンス (1 年生のみ開催) 実習交流会 (1・2 年合同)	11	WEL カム FARE [感謝祭 (花、球根)] 校外学習 (京の文化) 学園創立記念日 (10 日) 介護の日 (市老協イベント) 救命講習 (宇治市消防本部) 介護協学力評価試験 (卒業時共通試験)
6	施設実習 (区分Ⅰ－①) 施設見学 (京都ライトハウス) 実習指導者懇談会 (ZOOM 開催)	12	区分Ⅱ－①オリエンテーション 実習施設配置発表・事例研究発表会 福祉用具見学実習・人権学習 後期試験 (2 年生)・年末大掃除
7	前期授業終了 前期試験・追再試・成績発表 個別目標指導・中央法規出版模試① 施設実習 (区分Ⅰ－②) 直オリ	1	後期試験 (1 年生)・成績発表 第 37 回介護福祉士国家試験 卒業判定会議 介護福祉士登録説明会
8	模擬試験・区分Ⅰ－②実習報告会 視覚障害ガイドヘルパー講習 施設実習 (区分Ⅱ－②) 直オリ	2	施設実習 (区分Ⅱ－①)
9	施設実習 (区分Ⅱ－②) 実習報告会 (2 年) 統一試験対策講座開講 国家試験申し込み・ 職業実践専門課程委員会① 京専各協会体育大会 (バレーボール・卓球) 後期授業開始 (2 年)	3	実習報告会 (1 年)・進級判定会議 次年度履修科目説明会 介護福祉士会入会説明会 卒業証書授与式 令和 6 年度国家試験結果発表 職業実践専門課程委員会② 介護福祉士登録

(3) 進路状況 (卒業生: 26 人)

・進路状況全般

単位: 人

	福祉系就職	進 学	その他就職	合 計
希 望 者 数	25	1	0	26
決 定 者 数	25	1	0	26
進路決定率 (%)	100.0	100.0		100.0

・進路状況内訳

単位: 人

進 路 先	生 徒 数
高 齢 者 福 祉 施 設	25
障 害 者 福 祉 施 設	0
進学 (大学編入・専門学校)	1
一 般 企 業 (そ の 他 業 種)	0
医 療 機 関 ・ 療 護 型 医 療 施 設	0
公 務 員 ・ 社 会 福 祉 協 議 会 等	0
合 計	26

(4) 令和7年度生 募集状況

・入学試験結果

単位: 人

入試区分		出願者数	合格者数	入学者数		
				合計	男	女
内部進学		1	1	1	1	0
A O		19	19	18	6	12
求職者訓練生		4	3	3	2	1
推 薦	指定校推薦	0	0	0	0	0
	自己推薦	5	4	4	2	2
一 般		1	1	1	1	0
合 計		30	28	27	12	15

・地域別受験者（出身高等学校所在地別）

都道府県名	京都	滋賀	大阪	奈良	留学	その他	合計
出願者数(人)	12	4	1	0	9	4	30
出願者比率(%)	40.0	13.3	3.4	0	30.0	13.3	100.0

※その他：福井（2）、富山（1）、鳥取（1）

※留学：中国（4）、韓国（2）、カンボジア（1）、台湾（1）、ミャンマー（1）

2) 令和6年度の主な事業の目標、進捗状況

(1) 関連資格取得

	関連資格	受験・受講	結果
①	普通救命講習	26人受講	26人認定
②	レクリエーション介護士2級	31人受講	31人認定
③	レクリエーション・インストラクター	6人申請	6人認定
④	全国手話検定5級	31人受講	25人認定
⑤	福祉住環境コーディネーター2級	4人申請	3人認定
⑥	視覚障害者同行援護技術	4人受験	4人合格

(2) 施設設備の整備

- ・消火器交換 ・小倉駅周辺駅ナビ掲載
- ・PC室パソコン5台 ・エアコン更新工事（2F教室・廊下・男女更衣室）
- ・外壁コーキング工事（図書室北側）・高圧受電設備更新工事

(3) 生徒募集

- ・オープンキャンパス（OC）の充実

感染症対策として、対面式のOCは一日5組限定を引き続き実施した。

生徒スタッフも参加者状況を見ながら少人数の声掛けを行った。

対前年度予算と比較して、学校内ガイダンスや会場ガイダンスは極力減らし、昨年同様Webを中心にリターゲティング広告やジオタグに力を入れた。

新規の参加者数においては若干の減少傾向にあり、出願率でカバーしている状況である。参加者数と出願率が双方に上がると定員充足が可能である。出願率は昨年度とほぼ同率の55.6%となった。定員充足には届かなかった

が新規母数を増やす対策が必要と考える。

今後も粘り強くホームページやSNS、期間限定のリターゲティング広告、リスティング広告等 Web 主流の広報で本校の存在をアピールしていく。

- ・高等学校等訪問

Web を中心とした広報活動を行ったため行わなかった。

- ・入試制度の充実

AO入試での受験生を増加するべく、HP や DM・SNS を利用して PR した。OC 参加者にも 3 回の入学前教育の参加を紹介し、オープンキャンパス参加証（スタンプ制）の導入を継続して実施した。

OC 参加者に対する手ごたえは十分にあった。

また、京都府長期高度人材育成制度（訓練生）では 5 名枠の内、結果的に 4 名の受験があったが 1 名を不合格とした。

今年度も資料請求者数の増減は横ばいであるが、引き続き LINE（SNS）を有効活用し参加希望者との直接のやり取りをスムーズに行う。

定員充足率は 67.5% となった。次年度においては 100% を目指し募集活動を行いたい。

今年度の分析を行い OC 参加者に少しでも魅力ある学校であることを発信し、さらに選ばれる学校を目指す。

- ・地域との連携

近隣の数町内の住民を対象にサロンは社会におけるコロナ感染状況を見ながらの実施で開講した。「宇治けんこう楽学広場」、月 1 回（第 2 土曜）の健康体操やレクリエーションに毎回 20～30 名が参加され、生徒スタッフと共に楽しく過ごすことにより健康で生き甲斐を感じていただいた。

また、宇治地域福祉研究所による「学校 de カフェ」では、コロナ感染対策を万全に行い 5 月から月に 1 回テーマを決めて講師を招き開催し実施した。

（４） 教育内容の充実及び向上

- ・学校自己点検の実施

教育内容の向上を目指して、学校自己点検を今年度も実施した。

- ・授業評価の実施

理解しやすい授業を目指して、生徒による授業評価を今年度は年度末に 1 回実施した。（前期終了科目については前期実施）

以 上

3. 京都動物専門学校

1) 令和 6 年度の事業の概要

(1) 概 要

グルーミング学科／愛玩動物看護学科

建学の精神に基づいた教育の具現化を図る学校創りをするため、SKILL・LOVE・BUSINESS のスローガンのもと、アドミッションポリシー（入学受入方針）、カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）、ディプロマポリシー（進級・卒業認定、専門士授与に関する方針）を着実に進め、選ばれる学校となれるよう業務を遂行した。

① 職業実践専門課程への対応

職業実践専門課程の認定を受け 11 年が経過した。

令和 6 年度においては、教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会を 2 回実施した。

1 回目は令和 6 年 9 月 19 日に実施。

議案 1) 「令和 5 年度 自己点検・評価報告書」について

2) 「本校（学科）の現状」について

3) 「その他（産学連携の在り方・業界等の動向など）」について

2 回目は令和 7 年 3 月 18 日に実施。

議案 1) 「令和 6 年度 事業報告（教務・進路・入試・事務）」について

2) 「令和 7 年度 事業計画（案）」について

教務・進路・入試・事務からの報告を行い、委員の本校状況の理解に努めた。

また、委員から特に指摘されたことは、退学者の多さであった。愛玩動物学科教員の休職により、一人の教員が 2 学年の担任を兼務することとなり、その体制の影響を指摘・問題視されていた。令和 7 年度は教員募集を行い、愛玩動物看護学科については 2 名の常勤を採用し対応している。

その他、厳しい意見・指摘があったが、それぞれの考え方や議論を交わせる良い委員会であった。

② 令和 7 年度からの改編

令和 6 年度は愛玩動物看護学科の初めての卒業生を送り出すことができ、国家試験も全員合格することができた。しかし、試験対策・退学率・生徒の対応など課題もあった。両学科に共通するが、課題の発見とその対応、改編すべきことの精査を毎年度行う。

また、今年度も高等教育の修学支援制度の機関要件に係る対応を行う。

③ 愛玩動物看護学科の充実

- ・1学年に36名の入学。退学者5名、学科変更者1名、30名の進級であった。
- ・2学年に33名の進級。退学者7名、26名の進級であった。
- ・3学年に31名の進級。退学者0名、休学者0名、31名の卒業であった。
- ・愛玩動物看護師国家試験は、31名受験し全員合格であった。
- ・動物看護系の伝統でもある、ボランティア活動（グッズ制作～販売～愛護センターに寄贈）を実施した。
- ・N A V A ペット管理栄養士、Bio Art 犬・猫繁殖士資格取得を実施。

④ グルーミング学科の充実

- ・1学年に38名の入学。退学者4名、34名の進級であった。
- ・2学年に39名が進級。退学者0名、休学者0名、39名の卒業であった。
- ・自校認定トリマーライセンスを導入して10度目のライセンス交付であった。このライセンスは、全教科の成績・出席状況、すなわちトリミング技術だけでなく、専門知識やビジネスマナーなどをしっかり身につけた生徒の成長を評価するものであり、生徒の認識と意識の強弱によって大きく評価に影響する。今年度の傾向として、1・2年生の意識の高さがみえた。
- ・N A V A トリマーライセンスは導入して8年目となった。生徒は目標を明確に持ち日々努力できた。
- ・各級について、まだまだ課題は多く、よりレベルアップを目指す。
- ・P S I A（ブロンズ）の申請（1級合格33名→P S I A 申請21名）
申請率向上のためには、ペットスタイリスト国際協会の知名度向上は必要不可欠である。
- ・N A V A 全国トリミングコンテストに出場。入賞はならなかったが、審査員長から良い評価を頂けた。良質のモデル犬を準備できたことも、大きな要因となった。出場した生徒は貴重な経験ができたと思うが、結果を伴う喜びと達成感を体験させてあげなければならない。
- ・通常の実習において、良質のモデル犬の確保が必要である。

(2) 学校行事

月	行事	月	行事
4	講師会 入学式 健康診断 オリエンテーション 避難訓練 春のレクリエーション	10	ラブリーにゃんフェスタ（動物看護1年） 動物感謝デー in KYOTO（動物看護3年） 秋のレクリエーション
		11	第19回ぐーDOG祭 校外学習 動物愛護社会化検定基礎級試験（グルーミング1年） 愛玩動物飼養管理士1・2級試験 ビジネス実務マナー検定 NAVA トリマーライセンス2級試験
		12	校内トリミング競技会 NAVA トリマーライセンス3級試験
5	校外学習 ZPK ペット業界就職説明会（グルーミング2年）	1	授業参観（1年） 校内合同企業説明会
6	ビジネス実務マナー検定3級 動物看護総合実習（動物看護3年）	2	NAVA トリマーライセンス1級試験 全国トリミングコンテスト NAVA ドッグトレーナーライセンス2級試験 NAVA ペット栄養士・ペット管理栄養士試験 ZCC キャットマイスター・ベーシック試験 動物理学療法士2級試験 販売士検定 簿記検定 後期試験
7	インターンシップ（グルーミング2年） 授業参観（2年） アニコム試験		
8	前期試験 家庭動物管理士3級試験 インターンシップ（グルーミング2年）		
9	海外研修旅行 動物看護総合実習（動物看護2年） インターンシップ（グルーミング2年） 京専各体育大会	3	京都動物フォーラム2025（動物看護2年） 一日見学（1年） 卒業式

(3) 進路状況（卒業生総数:70人）

	動物系就職	進 学	その他	合 計
希 望 者 数 (人)	63 (グ34 看29)	0	7 (グ5 看2)	70
決 定 者 数 (人)	62 (グ34 看28)	0	5 (グ3 看2)	67

(4) 令和7年度生 募集状況（入学者数）

入試区分	出願者数	合格者数	入学者数		
			男	女	
内部進学	(6)	(6)	(6)	(1)	(5)
A 0	51	51	51	8	43
自己推薦	12	12	11	2	9
一 般	8	8	5	2	3
合 計	71	71	67	12	55
グルーミング学科			6	33	
愛玩動物看護学科			6	22	

※内部進学はA0を含む

地域別入学者（出身高等学校・大学短大所在地別）※通信制高校は本校所在地とする。

	京都府	滋賀県	大阪府	奈良県	その他	合 計
人数（人）	35	10	6	6	10	67
割合（％）	52.0	15.0	9.0	9.0	15.0	100.0

※学科変更者 1 名除く

2) 令和 6 年度の主な事業の目標、進捗状況

(1) 教育内容

① 教育内容の充実

- ・ 両学科ともにインターンシップ・外部実習先・研修先の確保はできた。
- ・ 2 年生の研修旅行は、海外（韓国）で実施し、日本とは異なった動物に対する文化を体感することができた。
- ・ 「ぐーDOG祭」は、今年度も通常通りの内容で実施した。
- ・ 校外学習とレクリエーションについても、年 2 回実施した。
（令和 7 年度からレクリエーションは春の 1 回のみとする）
- ・ 校内トリミング競技会を本年度も 1 号館 3 階で実施し、例年どおり張り詰めた空気の中、真剣な面持ちで参加者は腕を競った。生徒のモチベーションを大きく上げるイベントであり、見学した 1 年生にとっても先輩の姿に刺激を受け、明確な目標をもつ機会となった。
- ・ 校内トリミング競技会の入賞者 2 名が、全国トリミングコンテストに出場した。Aichi Sky Expo（愛知県国際展示場）での開催となり、生徒のモチベーションは上がっていた。今年も入賞することができなかったが、質の良いモデル犬を準備できた事と、生徒の頑張りにより、今までで一番良い評価をいただく事が出来た。今後は入賞という結果を残したい。
- ・ NAVA のトリマーライセンスを導入し 8 年目となった。今年度も外部の審査員による実施ができた。（3 級は内部審査）
合格率も悪くなく、少しずつレベルは上がっているとの言葉を頂けた。
- ・ NAVA（ドッグトレーナー 2 級、ペット栄養士、ペット管理栄養士）、動物理学療法士、キャットマイスターなど多様なライセンス試験を実施。
- ・ 愛玩動物看護学科教育課程の動物看護総合実習を実施。今後も、実習施設の確保を継続して行う。
- ・ 愛玩動物看護学科が「動物感謝デー in KYOTO」「京都動物フォーラム 2025」に、ボランティア活動（グッズ制作～販売～愛護センターに寄贈）としてブース参加。
- ・ （一社）京都府専修学校各種学校協会の体育大会に参加。
- ・ 薬物乱用防止ポスターの掲示及び京都府薬物乱用防止指導員を任命。

② 教育支援の強化

- ・ 修学支援制度（高等教育無償化）利用者 41 名。
- ・ 2、3 年生を対象に行っている在校生特待制度（10 万円支給）に 7 名が該当した。
- ・ 担任制の充実のため生徒による担任評価アンケートを、授業力を高めるために生徒による授業評価を年 2 回 実施した。（アンケート方法を紙からウェブに変更）
- ・ 生徒と担任の面談回数に重点を置き、個別面談を定期的に実施。

③ 進路指導の充実 ※R7年3月末在籍者（休学者は除く）を対象とする

- ・ インターンシップ研修者 2年：39名・・・グルーミング学科のみ
- ・ 就職、進学決定者 37名（希望者 39名）・・・グルーミング学科のみ
- ・ 個別面談で、履歴書、面接指導を実施。
- ・ 校内で合同企業説明会を実施。
- ・ 自主的なインターンシップ及び一日見学等を希望する生徒に対しての対応。

④ 高専連携

京都廣学館高校の生徒に対してオープンキャンパスへの誘導。

⑤ 資格取得状況

- ・ トリマーライセンス
 - S級・・・14名 A級・・・7名
 - B級・・・12名 C級・・・6名 無級・・・0名
- ・ （一社）日本動物専門学校協会 NAVAトリマーライセンス
 - 1級（2年生） 35名受験 33名合格
 - 2級（2年生） 39名受験 38名合格
 - 3級（1年生） 35名受験 35名合格
- ・ （一社）ペットスタイリスト国際協会 PSIAブロンズ
 - NAVA1級合格者 33名中 21名認定
- ・ 愛玩動物看護師国家試験
 - 31名受験 31名合格
- ・ 愛玩動物飼養管理士
 - 1級 0名受験 0名合格
 - 2級 56名受験 49名合格
- ・ 家庭動物管理士
 - 3級 36名受験 34名合格
- ・ 動物愛護社会化検定
 - 基礎 33名受験 31名合格
- ・ 販売士検定
 - 3級 35名受験 13名合格
- ・ ビジネス実務マナー検定
 - 3級 39名受験 17名合格
 - 2級 6名受験 3名合格
- ・ 日商簿記検定
 - 3級 10名受験 1名合格
- ・ Microsoft Office Specialist Word2019
 - 35名受験 26名合格
- ・ Microsoft Office Specialist Excel2019
 - 69名受験 59名合格
- ・ 損害保険募集人 一般試験
 - 62名受験 53名合格

- ・ NAVAドッグトレーナー2級
24名受験 23名合格
- ・ NAVAペット栄養士
35名受験 34名合格
- ・ NAVAペット管理栄養士
41名受験 35名合格
- ・ ZCCキャットマイスター・ベーシック
54名受験 51名合格
- ・ 動物理学療法士2級
47名受験 45名合格
- ・ Bio Art 繁殖士(犬)
30名受験 10名合格
- ・ Bio Art 繁殖士(猫)
30名受験 11名合格

※ 繁殖士資格 令和6年度より実施したが、内容的に受講する学年を見直すこととする。
Bio Art と協議の結果、受講については3年間有効としていただいた。

(2) 施設、設備の整備

- ① 2号館グルーミング実習室2・3階のリールコンセント完備
- ② オフィスグリコ導入
- ③ 2号館の入り口コンクリート舗装
- ④ 2号館南側境界のフェンス設置

(3) 生徒募集

① 募集活動

入学者目標を75名と定め、下記のような募集活動を行った。

- ・ 高等学校実施の進路ガイダンスは十分に考慮し積極的に参加した。
コンセプト動画等を見せるなど、多くの視覚的情報を与えられるよう工夫した。
- ・ 昨年度と同様、個別対応を強化。オープンキャンパス等イベントでは昨年同様に「AOエントリー資格証」の配布条件として個別相談会を対象生全員に実施した。
進路面談や3者面談で利用できる「教員用資料」も作成し、高校生から直接高校教員に渡してもらうような取り組みも行った。
WEBでの個別対応としては、引き続きLINEの1:1トークを活用し、個々の反応に対応する丁寧なやり取りを心掛けた。メッセージも頻繁に配信した。
- ・ オープンキャンパス、学校見学などへの動員目標(200名)並びに動員からの出願率目標(40.0%)を設定し、DM、進学情報誌、ホームページ等での広報活動の展開を図った。結果、動員数224名、動員からの出願率31.6%(AOエントリーを含む場合、36.6%)となった。動員数は目標値を上回ることができたが出願率に関しては、AOエントリーを含む場合でも36.6%と、目標に届かなかった。
具体的な出願人数では8名不足となってしまった。
- ・ 来校型イベントは参加人数を20名と限定し、1人1人に丁寧な対応が出来るよう実施した。昨年度から継続している「入試対策講座」も回数を増やして実施した。
- ・ リスティング広告の運用、WEBサイト(PC・スマートフォン)、SNS(ツイッター・

FB・LINE・Instagram・YouTube) などパブリシティー活動、PR 戦略を展開した。特にネット広告に重点を置いた。

- ・ SNS (LINE@) からのオープンキャンパス参加申込みを実施。
- ・ 缶バッジプレゼント等の企画を継続実施。

② 入試制度改革

AOアドバンス入試の導入と指定校推薦入試の廃止を実施し、3 年目であった。

- ・ AOアドバンス入試は例年同様、エントリー時の必要書類として個別相談後に配布する「AO エントリー資格証」を必須とした。更に、選抜試験として筆記試験及び面接を実施。ブランディング化も推し進め、本校の掲げるアドミッションポリシーにより合致した生徒募集を実施した。
- ・ エントリー数は 62 名。エントリー率は 50.0% だった。エントリー率は良いものの、エントリー数が大きく減少した。オープンキャンパスへの新規顧客取り込みが芳しくなかった。エントリー率が高いことより、一度でも来校してもらうと、学校説明や体験授業、個別相談を通して良い印象を持っていただいていると判断している。入試対策講座へのリピート参加も年々増加傾向にある。そのため、オープンキャンパス等イベント参加数を増やす取り組みや対策が急務である。
- ・ 募集定員厳格化、ブランディング化などを考慮し指定校推薦入試を廃止している。AOアドバンス入試の結果を受け、9 月末から実施の「自己推薦入試・一般入試」の広報にも力を入れて行った。合計で 20 名からの出願があった。例年よりも長期間にわたり、出願を受け付けていたため、学び直しを考えている積極性のある社会人・大学生に広くアプローチできた。
- ・ 今年度もグルーミング学科の根幹「グルーミング実習」をしっかりと広報することにより、トリマー資格を目指す学校としての認知度を高めた。入学後のミスマッチを防ぐことに効果が出たと考えている。また、愛玩動物看護学科は国家資格・合格率を詳しく説明した。特に合格率は具体的な数値で伝えることが出来るため、効果的に広報できた。
- ・ 令和 7 年度生出願状況（高等学校・大学短大所在地）として、京都府・滋賀県からの出願割合はやや減少。奈良県からは 1 ポイント近く増加した (8.1%→9.0%)。大阪府からは 6.8%→9.0% の増加。その他地域からは 16.2%→15.0 の減少となった。

＜京都府から出願割合推移＞※通信制高等学校においては本校の所在地とする。

H28 年度生 27 名 (61.4%) / H29 年度生 34 名 (57.6%) / H30 年度生 33 名 (58.9%)
R1 年度生 27 名 (55.1%) / R2 年度生 49 名 (59.0%) / R3 年度生 54 名 (50.5%)
R4 年度生 50 名 (61.0%) / R5 年度生 43 名 (55.8%) / R6 年度生 38 名 (51.4%)
R7 年度生 35 名 (52.0%)

＜滋賀県からの出願割合推移＞

H28 年度生 9 名 (20.4%) / H29 年度 11 名 (18.6%) / H30 年度生 10 名 (17.9%)
R1 年度生 8 名 (16.4%) / R2 年度生 16 名 (19.3%) / R3 年度生 30 名 (28.0%)
R4 年度生 12 名 (14.6%) / R5 年度生 15 名 (19.5%) / R6 年度生 13 名 (17.6%)
R7 年度生 10 名 (15.0%)

今後も募集エリアを再考した広報活動を行う必要がある。

(4) 自己点検評価の実施

学校関係者評価委員会を9月に開催し、令和5年度の総括を兼ねた報告書を作成し報告した。

南京都学園財務の状況

1. 令和6年度の財務の状況

(1) 資金収支計算書

令和6年4月 1日から

令和7年3月31日まで

単位:千円

収入の部			
科目	予 算	決 算	差 異
学 生 生 徒 等 納 付 金 収 入	697,996	691,055	6,941
手 数 料 収 入	18,567	19,008	△ 441
寄 付 金 収 入	3,199	4,438	△ 1,239
補 助 金 収 入	332,552	341,208	△ 8,656
そ の 他 の 収 入	56,869	72,099	△ 15,230
借 入 金	130,000	181,200	△ 51,200
前 年 度 繰 越 支 払 資 金	292,963	292,963	0
収入の部合計	1,532,146	1,601,971	△ 69,825
支出の部			
人 件 費 支 出	767,024	702,618	64,406
教 育 研 究 経 費 支 出	342,225	327,536	14,689
管 理 経 費 支 出	98,570	97,889	681
借 入 金 等 利 息 支 出	7,648	7,583	65
借 入 金 等 返 済 支 出	18,324	69,524	△ 51,200
施 設 関 係 支 出	5,500	4,937	563
設 備 関 係 支 出	23,200	21,408	1,792
そ の 他 の 支 出	△ 7,562	3,215	△ 10,777
次 年 度 繰 越 支 払 資 金	277,217	367,261	△ 90,044
支出の部合計	1,532,146	1,601,971	△ 69,825

(2) 事業活動収支計算書

令和6年4月 1日から

令和7年3月31日まで

単位:千円

1.教育活動収支

	予 算	決 算	差 異
学 生 生 徒 等 納 付 金	697,996	691,055	6,941
手 数 料	18,567	19,008	△ 441
寄 付 金	3,199	4,438	△ 1,239
補 助 金	332,552	341,208	△ 8,656
そ の 他 の 収 入	82,285	81,005	1,280
教 育 活 動 収 入 合 計	1,134,599	1,136,714	△ 2,115
人 件 費	773,928	709,461	64,467
教 育 研 究 経 費	446,125	430,603	15,522
管 理 経 費	102,628	101,893	735
教 育 活 動 支 出 合 計	1,322,681	1,241,957	80,724
教 育 活 動 収 支 差 額	△ 188,082	△ 105,243	△ 82,839

2.教育活動外収支

受取利息・配当金	140	532	△ 392
借入金等利息	7,648	7,583	65
教 育 活 動 外 収 支 差 額	△ 7,508	△ 7,051	△ 457

3.経常収支差額(1+2)

経 常 収 支 差 額	△ 195,590	△ 112,294	△ 83,296
-------------	-----------	-----------	----------

4.特別収支差額

特別収入	0	1,496	△ 1,496
特別支出	0	160	△ 160
特 別 収 支 差 額	0	1,336	△ 1,336

5.事業活動収支(3+4)

基本金組入前当年度収支差額	△ 195,590	△ 110,958	△ 84,632
基 本 金 組 入 額 合 計	△ 29,844	△ 13,577	△ 16,267
当 年 度 収 支 差 額	△ 225,434	△ 124,535	△ 100,899

(3) 貸借対照表

令和7年3月31日

単位:千円

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	5,996,704	6,073,870	△ 77,166
有形固定資産	5,912,398	5,991,787	△ 79,389
土地	4,946,887	4,946,887	0
建物	824,332	893,370	△ 69,038
構築物	24,755	30,089	△ 5,334
教育研究用機器備品	60,534	64,273	△ 3,739
管理用機器備品	10,707	11,430	△ 723
図書	44,230	43,960	270
車輛	953	1,778	△ 825
特定資産	79,000	79,000	0
退職給与引当特定資産	79,000	79,000	0
その他の固定資産	5,306	3,083	0
電話加入権	2,409	2,409	0
出資金	10	10	0
水道施設利用権	313	313	0
保証金	350	350	0
ソフトウェア	1	1	0
長期前払金	2,223	0	2,223
流動資産	557,712	381,006	176,706
現金預金	367,261	292,963	74,298
未収入金	97,398	53,053	44,345
前払金	35,923	31,108	4,815
立替金	56,220	116	56,104
仮払金	910	3,766	△ 2,856
資産の部合計	6,554,416	6,454,876	99,540
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	679,572	581,389	98,183
長期借入金	515,699	424,359	91,340
退職給与引当金	163,873	157,030	6,843
流動負債	418,121	305,806	112,315
短期借入金	89,860	69,524	20,336
未払金	96,276	36,232	60,044
前受金	110,162	108,721	1,441
預り金	121,668	91,329	30,339
仮受金	155	0	155
負債の部合計	1,097,693	887,195	210,498
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	9,695,788	9,682,211	13,577
第1号基本金	9,617,788	9,604,211	13,577
第4号基本金	78,000	78,000	0
繰越収支差額	△ 4,239,065	△ 4,114,530	△ 124,535
翌年度繰越収支差額	△ 4,239,065	△ 4,114,530	△ 124,535
純資産の部合計	5,456,723	5,567,681	△ 110,958
負債及び純資産の部合計	6,554,416	6,454,876	99,540

(4) 財産目録

単位:千円

科 目		令和6年度末
1	資産額	
1.	基本財産	
(1)	土地	
	校地	65,298.45㎡ 4,946,887
(2)	建物	
	校舎	16,981.46㎡ 824,332
(3)	構築物	24,755
(4)	教育用機器備品	7,176点 60,534
(5)	管理用機器備品	641点 10,707
(6)	図書	25,539冊 44,230
(7)	車輛	953
(8)	退職給与引当特定資産	79,000
(9)	その他の固定資産	5,306
2.	運用財産	
(1)	現金預金	
	現金	271
	普通預金・定期預金	366,990
(2)	未収入金	97,398
(3)	前払金	35,923
(4)	その他の流動資産	57,130
	合 計	6,554,416
2	負債額	
1.	固定負債	
(1)	長期借入金	
	京都信用金庫	515,699
(2)	退職給与引当金	163,873
2.	流動負債	
(1)	短期借入金	89,860
(2)	未払金	96,276
(3)	前受金	110,162
(4)	預り金	121,668
(5)	仮受金	155
	合 計	1,097,693

(5) 資金収支・事業活動収支対比

(1) 資金収支計算書

収入の部

科目	決 算
学 生 生 徒 等 納 付 金 収 入	691,055
手 数 料 収 入	19,008
寄 付 金 収 入	4,438
補 助 金 収 入	341,208
そ の 他 の 収 入	72,099
借 入 金	181,200
前 年 度 繰 越 支 払 資 金	292,963
収入の部合計	1,601,971

支出の部

人 件 費 支 出	702,618
教 育 研 究 経 費 支 出	327,536
管 理 経 費 支 出	97,889
借 入 金 等 利 息 支 出	7,583
借 入 金 等 返 済 支 出	69,524
施 設 関 係 支 出	4,937
設 備 関 係 支 出	21,408
そ の 他 の 支 出	3,215
次 年 度 繰 越 支 払 資 金	367,261
支出の部合計	1,601,971

(2) 事業活動収支計算書

1. 教育活動収支

	決 算
学 生 生 徒 等 納 付 金	691,055
手 数 料	19,008
寄 付 金	4,438
補 助 金	341,208
そ の 他 の 収 入	81,005
教 育 活 動 収 入 合 計	1,136,714
人 件 費	709,461
教 育 研 究 経 費	430,603
管 理 経 費	101,893
教 育 活 動 支 出 合 計	1,241,957
教 育 活 動 収 支 差 額	△ 105,243

2. 教育活動外収支

受取利息・配当金	532
借入金等利息	7,583
教 育 活 動 外 収 支 差 額	△ 7,051

3. 経常収支差額(1+2)

経 常 収 支 差 額	△ 112,294
-------------	-----------

4. 特別収支差額

特別収入	1,496
特別支出	160
特 別 収 支 差 額	1,336

5. 事業活動収支(3+4)

基本金組入前当年度収支差額	△ 110,958
基 本 金 組 入 額 合 計	△ 13,577
当 年 度 収 支 差 額	△ 124,535

2. 令和2年度以降の財務状況経年比較表

(1) 資金収支計算書

(単位:人)

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
生徒数(5月1日付)	783	872	923	877	847

収入の部

(単位:千円)

学生生徒等納付金収入	602,663	716,958	730,613	702,015	691,055
手数料収入	20,075	19,782	20,280	19,762	19,008
寄付金収入	5,629	4,491	5,571	1,140	4,438
補助金収入	359,120	372,129	354,282	345,300	341,208
その他の収入	139,630	9,490	293,113	191,884	72,099
借入金等収入	92,576	174,000	0	61,200	181,200
前年度繰越支払資金	97,294	112,466	118,352	196,039	292,963
収入の部合計	1,316,987	1,409,316	1,522,211	1,517,340	1,601,971

支出の部

人件費支出	606,074	742,356	702,366	678,711	702,618
教育研究経費支出	278,420	298,554	327,765	320,633	327,536
管理経費支出	84,130	86,769	89,091	92,196	97,889
借入金等利息支出	7,703	8,569	8,835	7,155	7,583
借入金等返済支出	76,656	108,900	80,320	68,522	69,524
施設関係支出	72,525	66,215	27,679	14,582	4,937
設備関係支出	36,851	33,824	21,455	18,622	21,408
その他の支出	42,162	△ 54,223	68,661	23,956	3,215
次年度繰越支払資金	112,466	118,352	196,039	292,963	367,261
支出の部合計	1,316,987	1,409,316	1,522,211	1,517,340	1,601,971

※各年度の補助金収入及び教育研究費支出には、下記の修学支援分補助金を含んでいる。(単位:千円)

令和2年度 99,959 令和3年度 105,472 令和4年度 104,905 令和5年度 98,808 令和6年度 106,037

(2) 事業活動収支計算書

(単位:人)

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
生徒数(5月1日付)	783	872	923	877	847

1.教育活動収支

(単位:千円)

学 生 生 徒 等 納 付 金	602,663	716,958	730,613	702,015	691,055
手 数 料	20,075	19,782	20,280	19,762	19,008
寄 付 金	5,629	4,491	2,710	1,140	4,438
補 助 金	359,120	370,721	347,371	344,587	341,208
そ の 他 の 収 入	12,685	60,012	34,273	35,852	81,005
教 育 活 動 収 入 合 計	1,000,172	1,171,964	1,135,247	1,103,356	1,136,714
人 件 費	622,685	743,749	702,366	689,382	709,461
教 育 研 究 経 費	382,733	407,876	434,586	424,489	430,603
管 理 経 費	88,908	91,636	94,096	96,254	101,893
教 育 活 動 支 出 合 計	1,094,326	1,243,261	1,231,048	1,210,125	1,241,957
教 育 活 動 収 支 差 額	△ 94,154	△ 71,297	△ 95,801	△ 106,769	△ 105,243

2.教育活動外収支

受取利息・配当金	262	162	274	465	532
借入金等利息	7,703	8,568	8,834	7,154	7,583
教 育 活 動 外 収 支 差 額	△ 7,441	△ 8,406	△ 8,560	△ 6,689	△ 7,051

3.経常収支差額(1+2)

経 常 収 支 差 額	△ 101,595	△ 79,703	△ 104,361	△ 113,458	△ 112,294
-------------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------

4.特別収支差額

特別収入	50,155	3,213	10,293	1,933	1,496
特別支出	19,557	2,520	349,289	32,961	160
特 別 収 支 差 額	30,598	693	△ 338,996	△ 31,028	1,336

5.事業活動収支(3+4)

基本金組入前当年度収支差額	△ 70,997	△ 79,010	△ 443,357	△ 144,486	△ 110,958
基 本 金 組 入 額 合 計	△ 24,478	△ 20,020	△ 39,176	△ 32,079	△ 13,577
当 年 度 収 支 差 額	△ 95,475	△ 99,030	△ 482,533	△ 176,565	△ 124,535

※各年度の補助金収入及び教育研究費支出には、下記の修学支援分補助金を含んでいる。(単位:千円)

令和2年度 99,959 令和3年度 105,472 令和4年度 104,905 令和5年度 98,808 令和6年度 106,037

(3) 貸借対照表

(単位:千円)

資産の部	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
固 定 資 産	7,018,647	7,003,782	6,350,323	6,073,870	5,996,704
流 動 資 産	178,618	224,456	287,023	381,006	557,712
合 計	7,197,265	7,228,238	6,637,346	6,454,876	6,554,416

負債の部

固 定 負 債	568,162	654,519	583,066	581,389	679,572
流 動 負 債	394,568	418,194	342,112	305,806	418,121
合 計	962,730	1,072,713	925,178	887,195	1,097,693

純資産の部

基 本 金	10,182,918	10,202,938	10,242,114	9,682,211	9,695,788
繰越収支差額	△ 3,948,383	△ 4,047,413	△ 4,529,946	△ 4,114,530	△ 4,239,065
合 計	6,234,535	6,155,525	5,712,168	5,567,681	5,456,723

負債及び純資産の部合計

合 計	7,197,265	7,228,238	6,637,346	6,454,876	6,554,416
-----	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

文 責

学校法人南京都学園	理 事 長	本 部 広 樹
〃	副理事長	木 原 茂 弘
〃	事務局長	脇 坂 正 宏
〃	財務課長	崎 濱 秀 臣
京都廣学館高等学校	校 長	瀧 野 博 史
京都福祉専門学校	校 長	丸 岡 晃 嗣
京都動物専門学校	校 長	木 原 茂 弘